

【水道】 強靱化：耐震化対策 担当課
水道工務課

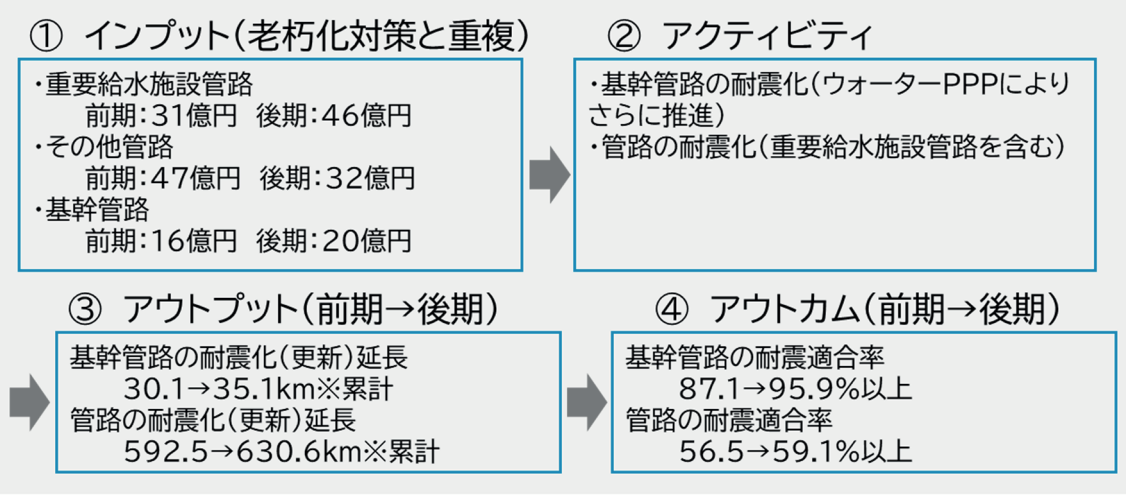
現状 ✓ 計画に基づく整備を進め、全国値より管路の耐震化率は高い

課題 ✓ 近年、特に基幹管路の耐震化が進んでいない
 ✓ 重要施設接続管は上下水道一体での耐震化が必要

実績 R6

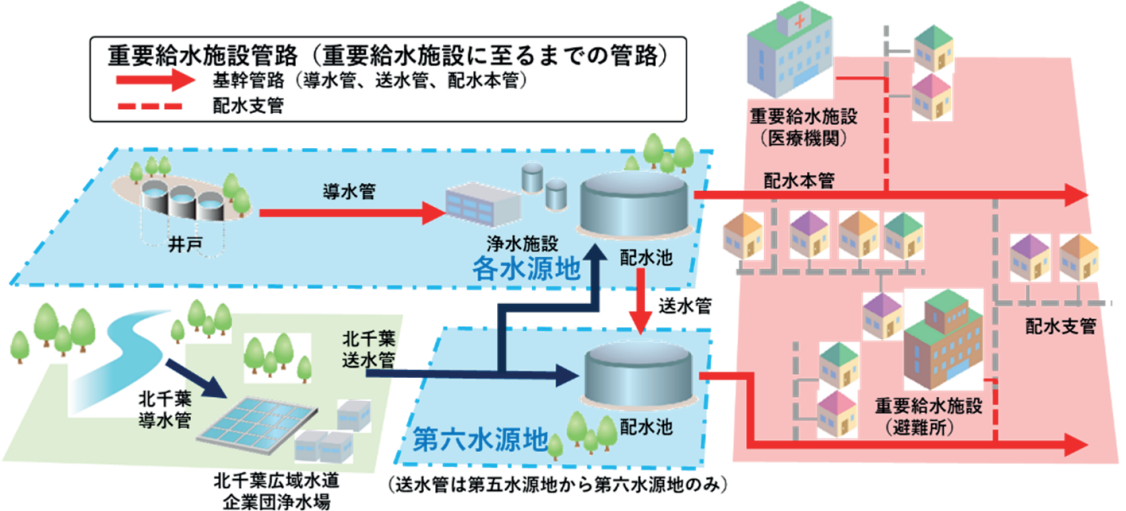
基幹管路の耐震化(更新)延長	25.2km※累計
管路の耐震化(更新)延長	534.9km※累計
基幹管路の耐震適合率	78.5%
管路の耐震適合率	52.6%

目標 震災時の管路の破損リスクを低減し、必要な施設への安定した水道供給を確保



測定指標

- 基幹管路の耐震化(更新)延長(km)
- 管路の耐震化(更新)延長(km)
- 基幹管路の耐震適合率(%)
 = (基幹管路のうち耐震適合性のある管路延長 / 基幹管路延長) × 100
- 管路の耐震適合率(%)
 = (耐震適合性のある管路延長 / 管路延長) × 100



基幹管路、重要給水施設管路のイメージ

【水道】 強靱化：耐震化対策

担当課
施設管理課

現状

- ✓ 計画に基づく整備を進めている
- ✓ 全国値と比較して、浄水施設の主要構造物及び配水池の耐震化率は高いが、浄水施設全体の耐震化率は低い

課題

- ✓ 配水池等の主要構造物の耐震化率は高いが、場内配管を含めた浄水場全体の耐震化率の向上が課題

実績 R6

浄水施設の主要構造物耐震化率	74.9%
配水池の耐震化率	88.2%
浄水施設の耐震化率	24.2%

目標

震災時の施設の破損リスクを低減し、安定した水道供給を確保

① インプット

- ・第五水源地配水池及び受水井更新等
前期：14億円
- ・第三水源地ろ過機更新
前期：42億円
- ・その他水源地設備更新等

② アクティビティ

- ・水源地等の施設・設備の耐震化・急所施設の耐震化

③ アウトプット(前期→後期)

浄水施設の主要構造物耐震化率
85.6→100.0%
配水池の耐震化率 93.5→100.0%

④ アウトカム(前期→後期)

浄水施設の耐震化率
24.2→70.2%

測定指標

- 浄水施設の主要構造物耐震化率(%)
= (耐震対策の施された浄水施設の主要構造物の浄水施設能力/全浄水施設能力) ×100
- 配水池の耐震化率(%)
= (耐震対策の施された配水池容量/配水池総容量) ×100

○浄水施設の耐震化率(%)
= (耐震対策の施された浄水施設能力/全浄水施設能力) ×100

※耐震化率の算定は、一水源地の着水井からポンプ棟までの一連の施設を系統単位で評価

【下水道】強靱化：耐震化対策

担当課
下水道工務課

現状 ✓ 計画的に整備しているが、全国値より重要な幹線等の耐震化率は低い

課題 ✓ 管きよは上下水道一体での耐震化が必要
✓ 施設の土木構造物の耐震診断が未実施であり、診断と対策が必要

実績 R6

重要な幹線等の耐震化延長	62.1km※累計
重要な幹線等の耐震化率	31.9%
篠籠田貯留場・柏ビレジ排水ポンプ場の耐震化整備進捗率	8.5%

目標 震災時でも下水道の役割(公衆衛生の確保、浸水の防除)を確保

① インプット

- ・重要な幹線等
前期:21億円 後期:67億円
- ・篠籠田貯留場の耐震化
前期:26億円 後期:23億円
- ・柏ビレジ排水ポンプ場の耐震化
後期:6億円

② アクティビティ

- ・重要な幹線等の耐震化
- ・篠籠田貯留場・柏ビレジ排水ポンプ場の耐震化

③ アウトプット(前期→後期)

重要な幹線等の耐震化延長
83.5→118.1km※累計

④ アウトカム(前期→後期)

重要な幹線等の耐震化率
43.2→61.0%以上
篠籠田貯留場・柏ビレジ排水ポンプ場の耐震化整備進捗率
35.0→73.5%

測定指標

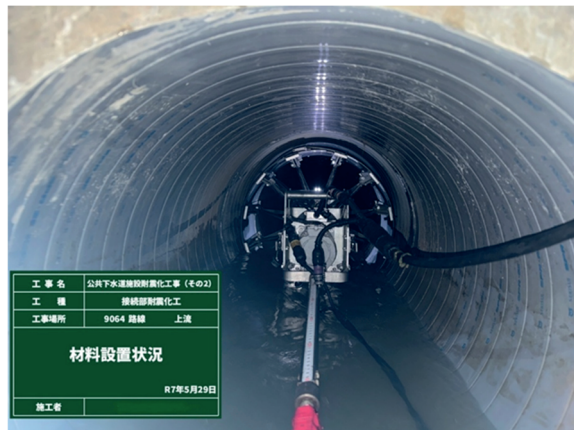
○重要な幹線等の耐震化延長(km)

○重要な幹線等の耐震化率(%)

= (重要な幹線等の耐震管延長/
重要な幹線等の管路延長)×100

○篠籠田貯留場・柏ビレジ排水ポンプ場の耐震化整備進捗率(%)

= (完了主要工程/全体工程)×100



対策工事の様子